

芸術講座／日本映像学会メディアアート研究会

## 「見えない世界から見えるもの」

講演：田中 みゆき (キュレーター／プロデューサー)

ディスカッション：田中 みゆき、小鷹 研理、関口 敦仁、ほか

日時：2018年9月22日 (土) 16:00～18:00

場所：愛知県立芸術大学芸術資料館演習室 入場無料

芸術講座問い合わせ先：芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-2873 (平日 9:00～17:00)



田中 みゆき

1980年生まれ、キュレーター／プロデューサー。21\_21 DESIGN SIGHT、山口情報芸術センター [YCAM]、日本科学未来館に勤務後、フリーランス。障害を「世界を新しく捉え直す視点」としてカテゴリーにとらわれないアプローチを展開する。近年の活動に『義足のファッションショー』『“subliminal wave of light” otto & orabu × 高木正勝 LIVE at Miraikan』(共に2014年、日本科学未来館)、『国際交流基金 障害 × パフォーマンスアート特集 “dialogue without vision”』(2016年、KAAT 神奈川芸術劇場)、『大いなる日常』展(2017年、ボードレス・アートミュージアム NO-MA)、『音で観るダンスのワークインプログレス』(2017年～、KAAT 神奈川芸術劇場)

などがある。プロデューサーとして携わる映画『ナイトクルージング』が2019年公開予定。

<http://miyukitanaka.com/>

生まれながらの全盲者が映画をつくるプロセスを追うドキュメンタリー『ナイトクルージング』



見えない人と音声ガイドを通してダンスを観る『音で観るダンスのワークインプログレス』

日本映像学会メディアアート研究会企画 一人間表現とメディアアート展一

## 拡張する知覚

日時：2018年9月15日 (土) - 9月30日 (日) 11:00 - 17:00 月曜火曜休館

場所：愛知県立芸術大学芸術資料館 入場無料

展示作家：

小鷹 研理 (認知科学、メディア表現、名古屋市立大学芸術工学研究科准教授)

大崎 のぶゆき (美術家、愛知県立芸術大学美術学部准教授)

大泉 和文 (美術家、中京大学工学部メディア工学科教授)

BCL [福原志保・Georg Tremmel] (アーティストック・リサーチ・フレームワーク)

山本 努武 (メディアアーティスト、名古屋学芸大学メディア造形学部准教授)

木下 雄二 (美術家、愛知県立芸術大学美術研究科)

関口 敦仁 (美術家、愛知県立芸術大学美術学部教授)

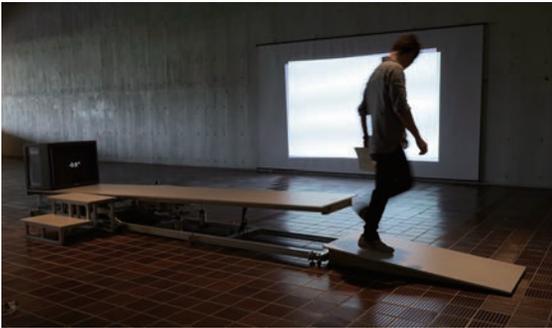


BCL Georg Tremmel(ゲオアグ・トレメル)、福原志保(ふくはら しほ)  
BCLは、サイエンス、アート、デザインの領域を超えたコラボレーション  
を行うアーティストック・リサーチ・フレームワーク。

2004年にGeorg Tremmel(ゲオアグ・トレメル)と福原志保によって  
イギリスにて立ち上げられた。2007年に活動拠点を東京に移し、  
InterCommunication Center[ICC]やアルスエレクトロニカなどの国内外  
のミュージアムやギャラリーでの展示やコラボレーションを行う。特に、  
バイオテクノロジーの発展が与える社会へのインパクトや、水環境問題  
について焦点を当てている。また、それらにクリティカルに介し、閉ざさ  
れたテクノロジーを人々に開いていくことをミッションとしている。

大泉和文(おおいずみ かずふみ)

1993年筑波大学大学院修士課程修了。中京大学工学部メディア工学科 教  
授。博士(メディア科学)。ドローイング・マシンほか大型インスタレーション  
作品を制作してきた。主な作品に《シューティングの猫II》(神戸ビエン  
ナーレ2007)、《Loss of Horizontality》(インターフェイスとしての映像と  
身体, 2017)、著書に『コンピュータ・アートの創生』(NTT出版, 2015年)。  
《Loss of Horizontality》2017年



木下 雄二(きのした ゆうじ)

「他者」という存在について探究する  
ことをテーマに創作活動を行なっている。自分と他者の間にある関係を社会  
の縮図として捉え、接触行為やパ  
フォーマンス(身体表現)などを通し  
て、発生した記録や資料・物体を、  
作品として展開している。  
2017年、武蔵野美術大学油絵学科  
版画専攻卒業。現在、愛知県立芸術  
大学 油画・版画領域在学中。



交通案内:

●名古屋方面から  
地下鉄東山線  
「藤が丘」駅下車  
東部丘陵線(リニモ)  
「芸大通」駅  
下車徒歩約10分

●豊田・瀬戸方面から  
愛知環状鉄道  
「八草」駅下車、  
東部丘陵線(リニモ)  
「芸大通」駅  
下車徒歩約10分

愛知県立芸術大学 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114  
「拡張する知覚展」問い合わせ: 芸術資料館 TEL. 0561-76-4698

小鷹研理(こたか けんり)

1979年生まれ。名古屋市立大学芸術工学研究科・芸術工学部情報環  
境デザイン学科准教授。認知心理学・VR・メディアアートを横断する視  
点に立ち、「からだの錯覚」に関わる諸問題を、具体的な装置を通して  
構成的に検証する小鷹研究室を主宰。年に1回、研究室展示「からだ  
は戦場だよ」を開催している。



大崎のぶゆき(おおさきのぶゆき)

美術家/愛知県立芸術大学准教授。独自の方法である絵画が溶けて消  
失していく作品や見えない絵画など、不確かさの感覚から記憶や時間  
について考察する作品を発表。近年の活動に『第12回文化庁メディア芸  
術祭』(2009年、審査委員会推薦作品)、『現代絵画のいま』(2012年、  
兵庫県立美術館)、『VOCA 2013』佳  
作賞(2013年、上  
野の森美術館)、  
『未見の星座』  
(2015年、東京都  
現代美術館)、  
2017年『大阪市咲  
くやこの花賞(美  
術部門)』受賞など。



山本努武

(やまもと つとむ)

1976年兵庫県尼  
崎市出身、名古屋学  
芸大学メディア造形  
学部 映像メディア学  
科 准教授。全景メ  
ディアを用いた景観  
表現をおこなってい  
る。 主な展示として:「景観の解像度 β版」(2018 長久手市 愛知県立  
芸術大学 多目的スタジオ)、「ベルドベ-3の幻影」(2017 日進市 名古屋  
学芸大学 撮影スタジオ)「あそびの描像」(2014 名古屋市 愛知県立芸術  
大学 サテライトギャラリー)、「三ヶ根パッファ」(2012 蒲郡市 松屋跡廃  
屋)、「別府消化器美術館」(2011 別府市 Platform02)



関口敦仁(せきぐち あつひと)

1958年東京生まれ、絵画・インスタレーシ  
ョン・メディアを中心とした作家活動を行い、  
1996年より情報科学芸術大学院大学教授  
を経て、2013年4月より愛知県立芸術大  
学デザイン工学学科教授。 身体情報  
を利用した「Connected Re-Body」2000年、  
金華山島に滞在して制作した「景観シリー  
ズ」2004-7年など、自己の身体知覚と場  
所性をテーマにした作品の発表や地理情  
報を活用した歴史情報コンテンツの研究な  
どを行なっている。



《La guerre - 戦争》(河村るみ、片岡勲人共作 2017年)